

式根島と大島 2025

旅のチカラ研究所

2025 年 7 月

旅のチカラ研究所 植木圭二

6 月の末、私と妻そして娘家族の合計 7 人で東京都の式根島、伊豆大島に行ってきた。老若男女の 3 世代が楽しめる旅になったので紹介したい。

■旅のプランニング

最近、私たち夫婦と娘家族の間で一緒に旅行に行こうという話が持ち上がっていた。娘夫婦には 2 人の小学生と 1 人の幼稚園児がいて、私と妻は日頃の子育てへのねぎらいと孫たちに少し早い夏休みを楽しんでもらおうと今回の旅行を計画した。

その旅はいつものシニアの旅ではなく 3 世代混在の旅になるので、面白そうな予感がしてくる。

娘家族にとって平日に旅行に行くのは難しい。そこで週末を最大限に活用する方法として、船の旅にした。船は非日常性が高く、感動と癒しの両方を体験できる。

基本プランは金曜日の夜に東京を出港し船中泊をして、伊豆諸島の中でも海が綺麗な式根島で海水浴を楽しみ、伊豆大島に宿泊して横浜に戻るというものだ。従って船に 3 度乗り、2 つの島を体験することになる。伊豆大島に泊まる理由は私も妻も数十回行っているから安心感があり、3 世代が楽しめる施設が整っているからだ。



【東京から伊豆諸島に行く大型客船「さるび丸」】

■大型客船

6月末の金曜日の夜、私たち3世代7人は東京の竹芝桟橋で大型船「さるびあ丸」に乗り込み、特2等の船室に入る。

当初の計画ではせっかく船に泊まるのだから豪華な特等か特1等の個室を予約しようとしたが、予約が始まってすぐに満室になる盛況ぶりで、仕方なく特2等にした。

しかし、それが孫たちにとってはかえって良かったのかもしれない。特2等は作り付けの2段ベッドの半個室で、カーテンで仕切る構造になっている。それはまるで“秘密基地”のようなものになるので、孫たちは大満足の様子だ。



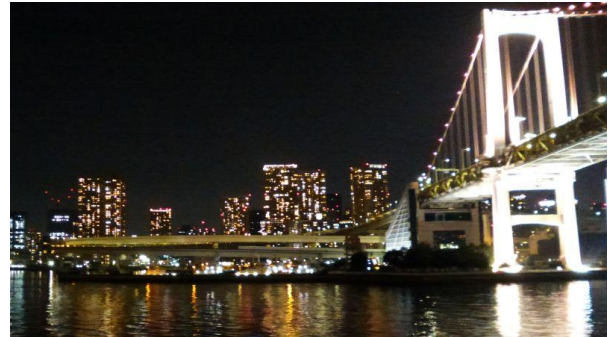
【特2等の船室（東海汽船 HP より）】

そしてこの船で私が孫たちに是非見せたかったのは東京湾から見る東京の夜景だ。陸から見る東京の夜景も綺麗だが、海から見る東京の夜景は非日常で圧巻だ。

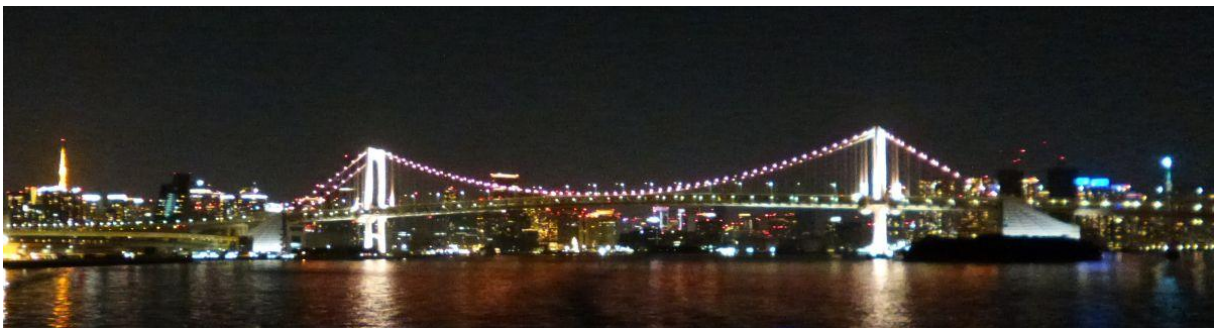
船がレインボーブリッジの下をくぐり、振り返るとレインボーブリッジが見える。その左に赤い東京タワー、右に青い東京スカイツリーが建っている。



【竹芝桟橋】



【レインボーブリッジ】



【中央にレインボーブリッジ、左に東京タワー、右に東京スカイツリー】

この夜景に孫たちは「じいちゃん、すごい！東京の夜景ってすごいよ！」と言って、飛び跳ねている。子供は喜びを全身で表現するから、見ている私たちも気持ちよい。そして娘夫婦も感動している。

その感動的な夜景を酒の肴にして、私たち7人は旅の船出を祝してビールやジュースで乾杯する。

■式根島の海で遊ぶ

朝 9 時に式根島に入港する。式根島は人口約 470 人、面積は伊豆諸島の有人島 9 島の中では一番小さい。島一周は約 5km なので簡単に一周できるが、今回は港の近くを歩いて巡る。

まずは「泊海水浴場」にやって来る。そこは岩に囲まれた入江で“すり鉢状”をしている。大昔は火山の火口だったものが、波の浸食を受けて砂が積もり今の姿になったのだろう。



【式根島の泊海水浴場】

透明度抜群で、白い砂が海の青さを引き立てている。入江なので波が穏やかで、小さな子供も安心して遊ぶことができる。さらにトイレ、シャワー、脱衣所もあり、これらが無料で使えるからありがたい。

数組の海水浴客がいるが、まるでプライベートビーチのようにになっている。神奈川県内の海水浴場に比べれば異次元で、それゆえ環境省の日本の水浴場 88 選にも選ばれている。

孫たちは砂浜を掘って何やら作っている。それを娘夫婦が手助けをして、私はチャチャを入れている。そして水切りの石投げに興じ、小さな魚や蟹とも触れ合っている。

孫たちは大自然を満喫し、娘夫婦ものんびりとした時間を過ごしている。私と妻はその様子を見守っている。それはまるで映画のワンシーンを見ているようだ。



【泊海水浴場】

■島内散策

海遊びだけでは、せっかく式根島に来たのにもったいないから島内散策をする。

港には漁船を係留している入江があり、歩きながら何気なく入江を見ていたら、ウミガメが泳いでいる。孫たちも娘夫婦も驚きそして興奮している。私にしても野生のウミガメを漁港で見るのは極めて珍しい。

偶然通りかかった島の人が、「ウミガメ 3 匹いるでしょう、他にエイもいますよ」と教えてくれるが、残念ながらエイは見る事ができなかった。

孫たちは「コンビニはどこ？サイゼリヤはないの？」と、いかにも都会っ子らしい質問をする。娘は孫たちに「ここは小さい島なので、そういう店はないのよ、でも何か飲みたいね」と言っている。

しばらく歩いて行くと小さい商店があり、アイスクリームの看板が出ている。早速店内に入り、孫たちはアイスクリームを、大人たちはビールを買って、店先のテーブルを囲んで椅子に腰掛けて、それらをいただく。

皆、これぞ至福の時という顔をしている。

■式根島の小学校

小学生の孫たちに離島の小学校を見せたくて、式根島小学校にやって来る。

本日は土曜日で校門は閉まっており、「許可の無い者、立ち入り禁止」の看板がある。たまたま学校に来た人に「この子たちに見せたくて、入ってもいいですか？」と聞くと、少し驚いたようだが「どうぞ、どうぞ」と言ってくれる。

いつものシニアの旅友だけならば勝手に入るところだが、小学生の前ではルールを守らないといけない。そう考えると大人はルールを守らないものだと思えて感じてしまう。

校内は全面芝生になっており、かなり広い。これには私たち全員が驚いてしまう。



【式根島小学校の校庭】

たまたま校庭にいた人に全校生徒の人数を聞くと全部で**25人**だという。と言うことは1学年4人くらいになる。それを孫たちに話すと驚いている。1学年4人というのがとても想像できないらしい。

私は孫たちに「たぶん1学年毎に授業を受けるのではなくて、1、2年生、3、4年生、5、6年生というように、3クラスくらいで授業しているよ」と言うと、今度は他の学年と一緒に授業を受けるというのが全く理解できないらしい。

■ジェット船に乗る

今宵の宿は伊豆大島のホテルを予約しており、私たちは式根島からジェット船に乗って伊豆大島に向かう。

そのことを孫たちに伝えると、孫の1人が「ジェット船って、何？」と聞いてくるので、私は「水中翼で、海の上を滑走するから凄く速いよ」と答える。すると孫は「海の上を飛ぶの？」と不思議がっている。

ジェット船はNASA（米航空宇宙局）が開発したもので、水中翼によって船体を水の上に浮上させて走行するので時速80kmのスピードがでる。

そのジェット船が近づいてくると、その速さに孫たちは驚いている。そして「本当だ、水の上を飛んでいるよ」と興奮しながら言っている。



【浮上航行するジェット船（東海汽船 HP より）】

ジェット船に乗り込んで出港する。しばらくすると浮上航行になる。それはもはや船の速さではなく、高速道路を走る自動車くらいスピードになる。もちろん孫たちはその速さに興奮しまくっている。

■火山の島

伊豆大島に着き、レンタカーを借りて海水浴場の「弘法浜」にやってくる。

先程までいた式根島の泊海水浴場の砂は白かったが、ここ弘法浜の砂は黒い。

火山活動により溶岩が急速に冷えて固まった玄武岩だから黒いという。同じ伊豆諸島でも島によって個性がある。

これには孫たちは目を白黒させている。



【弘法浜の黒い砂】

伊豆大島のほぼ中央には活火山の三原山がある。いやむしろ三原山の山体そのものが伊豆大島と言っても過言ではない。三原山は二重カルデラ火山で、外輪山の一角に登山口があり、そこは展望台にもなっている。

その展望台にやって来て、目の前に雄大な三原山を臨む。この三原山をバックに妻も娘も孫たちの写真を撮りまくっている。

■大島温泉ホテル

今宵の宿「大島温泉ホテル」にやって来る。このホテルは三原山の外輪山の一角に建っているから、先ほどの展望台と同じように目の前に三原山を眺めることができる。

それは露天風呂からも見えるので、絶景露天風呂がこのホテルの“売り”になっている。



【三原山を臨む絶景露天風呂】

早速、露天風呂に入る。もちろん源泉かけ流しで、ちょうど良い温度になっている。目の前には三原山が大きく広がっていて解放感抜群の入浴を楽しむ。

一緒に温泉に浸かっている娘婿と男の子の孫も、絶景露天風呂に感動しまくって「露天風呂、最高！」と言っている。

私は伊豆大島に来たらこの露天風呂には必ず入るようにしている。おそらく絶景露天風呂のランキングがあれば上位に入るのは間違いないだろう。

夕食は金目鯛のしゃぶしゃぶを頼んであり、これが実に美味しい。娘夫婦は「これは滅多に食べられないよ、絶品だね」と言っている。

金目鯛の水揚げ日本一は、伊豆大島から 35km ほど西にある伊豆半島の先端の下田港だ。従って伊豆大島近海でも金目鯛が多く獲れる。だから新鮮な金目鯛がたくさん出てくる。

ホテルの屋上が解放されていて椅子が置かれており、晴れているので三原山、そして海の向こうに伊豆半島や富士山が見える。

夜になるとそれらが星空に代わる。ここは伊豆大島の山の上なので邪魔する明かりもなく、満天の星空になっている。これもまた都会っ子の孫たちにはとても衝撃的だ。

朝食はビュッフェスタイルで、日曜日なのでかなり混んでいる。混んでいるのは仕方ないが、宿泊客が多いから料理がなくなっている。従業員たちは平謝りで補充するが、それも間に合わず、少ないおかずで食べることになる。

これは言語道断だ。宿泊者の人数は分かっているから、どう考えても宿の怠慢だ。私は責任者に文句の一つも言いたくなっている。

ところが孫たちは少ないおかずでも楽しんで食べている。

そして孫たちは「じいちゃん、みんなで分け合って食べよう」と言っている。私はその言葉にハッと我に返って、何やら恥ずかしい気持ちになる。

孫たちは純粋だ。それに対して私は文句を言っても何も解決しないことが分かっている一言いいたいくなるのは、まだまだ修業が足りない。

■伊豆大島を巡る

最終日は伊豆大島をレンタカーで巡る。約 50km の大島一周道路があって、レンタカーならば比較的簡単に島一周できる。

島の南西部の海岸沿いにある「地層大切断面」にやって来る。地元では“バウムクーヘン”と呼ばれていると孫たちに教えて、孫たちは「本当にバウムクーヘンだ、美味そうだ」と言っている。



【バウムクーヘンと呼ばれる地層大切断面】

「波浮の港」はかつて遠洋漁業で賑わっていた。羽振りの良い漁師たちが芸者をあげて宴会をした「旧港屋旅館」がある。旅館の中に入ると、その宴会の様子を人形で再現している。

実は川端康成が学生時代に旅をした経験から書いた小説「伊豆の踊子」に出てくる旅芸人一座は波浮の港を本拠地としており、踊子たちはここで芸を磨いていた。

波浮の港から車で 5 分、岸壁近くの海上に高さ約 30m の筆を逆さに立てたような奇岩「筆島」がある。これも火山活動で固まった岩で、火山の島を感じさせてくれる。

孫たちも娘夫婦も「伊豆大島はいろいろ見る場所があるね」とご満悦のようだ。

■伊豆大島の公園

「大島町メモリアル公園」は、2013年伊豆大島土砂災害により甚大な被害を被った場所にできた新しい公園だ。

公園内には本格的なスケートボード場もあり、無料開放されている。少し前にテレビで紹介されていたので私は知っていたが、今回初めて本物を見る。

全面がコンクリートで整備され、初級者から上級者まで楽しむことができる。このような施設は日本国内には少ないらしい。



【大島町メモリアル公園のスケートボード場】

広い公園内にはたくさんの子供向けの遊具がある。まだ新しい公園なのでどの遊具も新しく、そしてどれもが珍しい。人はほとんどいないから、孫たちはそれら遊具を我が物顔で使って遊んでいる。



【大島町メモリアル公園の遊具】

島内にはもう一つ大きな公園ある。それが「都立大島公園」で、動物園と植物園があつて、植物園に隣接して椿園がある。私はいつもシニアの友人たちを連れて訪れているので、椿園を見学するが、今回は孫たちがいるので動物園を見学する。

財政豊かな東京都立だからなのか、動物の種類が多く園内も広い。“海を見ながら楽しむ動物園”というキャッチコピーがあつて、まさしくそのとおりで真っ青な海が見える。

最も目を引いたのは日本一広いというサル山で、三原山の噴火で噴出した溶岩が固まって出来た岩山をそのまま活かしている。

サル山の隣には大きなゾウガメがいる。このサイズには孫たちはもちろん娘夫婦も驚いている。



【都立大島公園の動物園の火山岩でできたサル山 山羊が何匹か見える】

■横浜へ

帰りも大型客船さるびあ丸に乗る。今回この船は横浜港にも寄港するから、東京竹芝栈橋と異なる体験ができて、神奈川県に住む私たちにとっては時間短縮にもなる。

往路は1泊したので特2等の秘密基地だったが、復路は横浜港まで3時間半なので2等椅子席を予約した。

孫が「秘密基地の方が良かった」と半泣きで言っているが、椅子席に慣れてくるとそれはそれで楽しみ方を見つけている。

かなりの角度まで傾くリクライニングシート、前後左右を仕切るロールカーテン、フットレスト、オットマン、ひじ掛けから出るテーブルなど、遊ぶには事欠かない。

3度目の乗船も好評のようだ。



【さるびあ丸の2等椅子席】

一昨晚は暗くて見ることで出来なかったが、浦賀水道では右に人工島の第一海堡と第二海堡、左に猿島が見えてくる。東京湾の入口なので、どれも首都防衛のために砲台が置かれていた。



【第二海堡】

横浜の大さん橋に入港すると、大勢の人々が並んでいる。この人たちはここから東京の竹芝桟橋まで乗るために待っているらしい。

現在時刻は 18 時、竹芝桟橋到着は 19 時 45 分だから東京湾の夜景を見るにはちょうど良い時間帯になる。料金は 1920 円で、日曜日の夕方からの夜景クルーズは人気があるようだ。

それにしても凄い人数だ。この船の定員は 1343 人だが、それを超えそうな人たちが乗るから、夜景どころではなさそうな気がする。

大さん橋には就航前の新クルーズ船「飛鳥Ⅲ」が停泊している。真新しい船体が私たちを迎えてくれて、3 世代 7 人の旅が終わる。

■旅の記録

実施は 2025 年 6 月 27 日（金）～6 月 29 日（日）の 2 泊 3 日で、その行程を示す。

- ・ 1 日目 20 時に浜松町駅で待ち合わせして夕食、竹芝桟橋 22 時発の東海汽船の大型船「さるびあ丸」乗船し、東京湾の夜景観賞
- ・ 2 日目 9 時に式根島着、徒歩で「泊海水浴場」へ、12 時から式根島島内散策、14 時 10 分ジェット船に乗り 15 時 20 分伊豆大島着、レンタカーで「弘法浜」へ「三原山登山口」に行き、「大島温泉ホテル」にチェックイン
- ・ 3 日目 10 時に宿を出発、「大島町メモリアル公園」、「地層大切断面（バウムクーヘン）」、「波浮港」、「筆島」、「都立大島公園」、スーパーマーケットで昼食の弁当を買い船の待合室で食べ、14 時 30 分伊豆大島発「さるびあ丸」に乗船、18 時に横浜大さん橋に到着、帰宅

費用は 7 人（大人 4 人、子供 3 人）の総額で約 20 万になった。そこから東京都の島しょ部への旅行支援事業「しまぼ通貨」を利用して 24000 円が割引かれて、実質約 176000 円になった。詳細は以下に示す。

船	77480 円	（竹芝桟橋から式根島は大型船の特 2 等、式根島から伊豆大島はジェット船、伊豆大島から横浜は大型船の 2 等椅子席東海汽船の株主優待を利用して全て 35%引き）
レンタカー	13980 円	（JS レンタカーのワゴン車 11500 円、ガソリン代 2480 円）
宿泊費	83856 円	（大島温泉ホテル 2 部屋、株主優待で 2 割引、飲み物含む）
その他	約 25000 円	（初日の夕食、2 日目と 3 日目昼食など）
旅行支援	－24000 円	（東京都の島への旅行支援事業「しまぼ通貨」80000 円分を 56000 円購入したので、実質 24000 円の割引）